

須賀川市立義務教育学校「稻田学園」学園だより

とううん

稻雲

令和7年11月14日発行

令和7年度 第14号

発行者：校長 田中 朗裕



○「松明あかし」の「出発式」を実施しました

11月7日（金）に、松明づくり協力会や保護者の皆様にご出席いただき、松明の出発式を実施しました。児童生徒会長のあいさつでは、協力会や地域の皆様からいただいたこれまでのご支援に対する感謝の言葉、伝統行事を受け継ぐ者として「完全燃焼」を目指すという目標が語られました。協力会の会長様からも激励の言葉をいただき、式の最後には、全校児童生徒で松明の「完全燃焼」を祈念した「松明の応援」も行いました。

出発式の後には、協力会や保護者の皆様のご協力をいただき、五老山山頂への稻田学園の松明の設置も行いました。設置後、11月9日（日）に「日本管楽合奏コンテスト」があるため、「松明あかし」に参加できない音楽部の生徒がステージ練習の合間に五老山に駆け付け、9年生や教職員が寄せ書きをした垂れ幕を一針ずつ思いを込めて松明に縫い付けてくれました。



○今年も「完全燃焼」できました！

11月8日（土）の午後6時30分から、翠ヶ丘公園の五老山山頂において、「松明あかし」が開催されました。9年生とその保護者、そして教職員が参加しました。松明に火が灯ると、生徒たちからは大きな歓声が上がり、協力会の皆様等のご指導を受けながらも、自分たちで松明を作成したという達成感を味わっている様子も感じられました。同じ時刻には、「日本管楽合奏コンテスト」に向けて移動中の音楽部の生徒もバスの中で「応援歌」を歌って、五老山にいる仲間と心をひとつにしていたようです。応援合戦も行われ、他校と互いにエールを交換する姿や学級の仲間に感謝の思いを伝えるといった感動的な場面もありました。全員で松明の炎が赤々と夜空を照らす様子を見つめ、ついに目標としていた「完全燃焼」の瞬間を迎えることができました。9年生が「伝統行事の継承者」として力強く歩み始めることができ、本当に嬉しく思っています。稻田学園松明づくり協力会の皆様、保護者の皆様、ご協力いただいた各企業の皆様、本当にありがとうございました。



○Rojima (ロジマ) でドライトマトを販売しました!

11月9日（日）に開催された Rojima (ロジマ) に、本校の6年生が出店しました。販売したのは、6年生が育て、株式会社 J-RAP さんで加工していただいた「ドライトマト」と、6年生が作った「虫除け用のトンボ（オニヤンマ型）」です。「いらっしゃいませ！」「おいしいドライトマトはいかがですか？」「虫除けのトンボもありますよ！」など、6年生は、お客様に説明も加えながら、元気に販売しました。おつりの計算もしっかりできて、お昼前には全商品が完売。6年生にとっては、大満足の活動となりました。収益はこの後、自分たちが6年間使用したランドセルをアフガニスタンに送る活動の送料にあてる予定です。お買い求めいただいた皆様、ご協力してくださった保護者の皆様、J-RAP さん、ありがとうございました。



○大興奮の「芸術鑑賞教室」になりました！

11月4日（火）に、「2人組のサーカス団『たらったらった』」さんをお迎えして、芸術鑑賞教室を実施しました。パントマイム、ジャグリングやアクロバットなどを披露していただきました。途中、児童や先生がステージに上がってお手伝いをしたり、みんなで大きな風船で遊んだりと、前期課程の児童全員で楽しむことができ、大興奮の「芸術鑑賞教室」になりました。6年生児童からのお礼の言葉には、パフォーマンスの迫力や楽しかったところ、感じたことなどがたくさん込められていて、とてもいい時間になったことが伝わってきました。最後に一人一人に風船もプレゼントしていただきました。



○音楽部・バドミントン部が大活躍です！

11月1日（土）・2日（日）に、会津総合体育館で行われた「第43回福島県中学生新人バドミントン競技大会」の女子ダブルスに出場した本校の8年生2名が、見事ベスト8に進出し、12月26日から青森県弘前市で開催される東北大会への出場権を獲得しました。

音楽部は、11月2日（日）と9日（日）に2つの全国大会に出場し、どちらも「優秀賞」をいただきました。特に9日の「日本管楽合奏コンテスト」のステージは、生徒たちが「今まで最高の演奏」と感じるほど素晴らしい、聴いていた私も鳥肌が立っちゃいました。

随想 SNS やインターネットとの関わり ~メディアコントロール期間~

本校では、7・8年生の期末テストのための部活動休止期間に合わせて、11月12日（水）～16日（日）までの5日間に、前期課程で「家族の日」として「メディアコントロール期間」を設定しています。後期課程の生徒はテスト勉強に集中して取り組むことで、自然にメディアコントロールができると思いますが、前期課程の児童は、家族と話し合って決めたひとつのコースに挑戦します。コースの中には、1日中一切メディアを使用しないコースもあります。今後どのようにメディアとつながっていくか考える貴重な期間になることを期待しているところです。11月10日（月）の「読売新聞オンライン」の記事に、10代のオンラインカジノ経験者が18万人いると書かれています。「まだ子どもだから大丈夫。」ではなく、今がメディアとの関わり方を大人が「教える」、子どもが「学ぶ」大切な時期なのではないかと思っています。